



アムネスティ・インターナショナル  
メディア・ブリーフィング

AI Index: ASA24/001/2011

2011年5月3日

## 朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮): 政治囚収容所の実態

朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)において、キム・ジョンイル(金正日)総書記の後継指導者体制を準備する過程で新たな弾圧の可能性の恐れがある今、アムネスティ・インターナショナルは、同国の政治囚収容所の恐るべき実態に光を当てるため、新たな映像と証言を公表する。

このブリーフィング・ペーパーは、15人のかつての被収容者と収容所看守の証言に拠るものである。彼らのほとんどが自らの安全のために匿名を望んでいる。

### アムネスティ・インターナショナルの要求

アムネスティ・インターナショナルは、同国の指導者であるキム・ジョンイルに次のことを求めている。

- ・ 政治囚収容所の存在を認めること
- ・ すべての政治囚収容所の即時閉鎖
- ・ 「連座制」<sup>1</sup>により捕らえられている親戚を含む、すべての良心の囚人の即時かつ無条件の釈放
- ・ 国際的に認められた罪で起訴されていないすべての被収容者の釈放、独立した法廷への差し戻し、公正な裁判

---

<sup>1</sup> 連座制：被疑者の家族の3世代までがヨドクに送られる。父母、祖父母、兄弟姉妹、姪・甥、いとこまでが含まれ得る。反体制者を黙らせ、国民を恐怖で支配する目的で用いられている。

## 管理所(政治囚収容所)

管理所(政治囚収容所)には、次のような人びとが移送される

- ・ 指導部を批判した人びと(ほとんどが公務員)。
- ・ 政策の実施で失敗したと見なされた公務員と党幹部。
- ・ 他国(たいていの場合、中国)で韓国人と接触した人びと。
- ・ 食糧危機で政府の政策を批判した人びとを含む、反政府勢力に属しているとみなされた人びと。
- ・ 韓国の放送を視聴した人びと。
- ・ 朝鮮戦争時(1950-1953)の未送還戦争捕虜。
- ・ 韓国 NGO と一緒に、または宗教書を所持して、あるいは軍・政治指導層と関係して、韓国へ向かう途中に国境を越えて中国で捕らえられた人びと。

推計 20 万人の犯罪者と家族が 2 種類の区域に収容されている

- ・ 完全統制区域：当局が、反政府を含む重大な罪を犯したと見なした人びとを収容する。これまでにひとりも釈放されていない。
- ・ 革命化区域：当局が、政府の政策に批判的、あるいは不法に国境を越えたなど、前者より重大ではない罪を犯したと見なした人びとを収容する。刑期は数カ月から 10 年に及んでいる。

## ヨドク収容所の状態

- ・ ヨドク政治囚収容所(第 15 号管理所)がある咸鏡南道(South Hamkyung)地方の冬季の平均気温は、マイナス 20 度からマイナス 30 度の間で変化する。ほとんどの収容所に毛布はない。
- ・ 200 人に一つのトイレしかない。
- ・ 適切な医療を受けられない。
- ・ 収容者の面前で公開処刑が行われる。

ヨドクの政治囚収容所を除くと、アムネスティ・インターナショナルは、他の収容所の状態について非常に限られた情報しか持っていない。私たちはその位置、そして衛星の画像から、被収容者の概算と生産物を把握するにとどまっている。

アムネスティ・インターナショナルが入手するほとんどすべての情報は、同国の政治囚収容所から釈放され、なんとか国外へ逃れた人びとから得たものである。彼らの多くは、ヨドクの革命化区域の元被収容者である。

## 統計値

- ・ これまでに、3 人だけが、完全統制区域にある第 14 号と第 18 号政治囚収容所から脱走し、なんとか出国したということが知られている。
- ・ 一人の子どもが、立つことも横になることもできない小さい「拷問房」に 8 カ月間収容された。

- ・ 被収容者の推定 40 パーセントが栄養失調で死亡する。
- ・ インタビューを受けたすべての元被収容者は、それぞれ少なくとも一つの公開処刑を目撃した。
- ・ 同国内（収容所においてではない）での公開処刑の数は、ここ数年で急増している。これは、現在の指導者のキム・ジョンイルから 3 男のキム・ジョンウン（金正恩）への予定されている政権移行の前に、起こりうる政権批判に対する厳重な取締りの一部だと考えられる。その数は、少なくとも 7 年前から増加し、2010 年には 60 人が公開処刑されたことが知られている。

## 収容所における刑罰と拷問

### 処刑

射殺または絞首で、看守の裁量で行なわれる。

### 独房

秩序を乱すとされたものは、立つことも横になることもできない独房に入れられる。独房には最低限で 1 週間閉じ込められる。アムネスティは、13 歳の少年が 8 カ月間収容されていたケースを把握している。

### 水責め

ビニール袋を頭から被されて、長い間水に沈められる。

### 飛行機

手足を後ろにして縛って、顔を地面に向けて吊るす。一日に最高 5 回、1 回に 30 分間吊るされる。

その他の拷問として、睡眠剥奪、爪の下に鋭利な竹片を刺す、手錠、手首を縛って吊るすなどが行われている。

## 連座罪

数万人が「連座罪」で管理所に収容されていると思われる。こうした人びとは、親族のひとりが収容所に送られたために収容所に送られた。

5 つの谷にまたがるヨドク収容所の中のひとつである第 15 号管理所に「連座罪」で捕えられている人数は、数千に上る。

ヨドクは5万人を抱える収容所で、家族用の地域（革命化区域を構成する）のひとつとして知られている。彼らの多くが「連座罪」である。「連座罪」で収容されている他の囚人は、ヨドクの「完全統制区域」にも収容されていると考えられている。

## 典型的な例と証言

### 処刑

- ・ シン・ドンヒョク (Shin Dong-hyuk) : 第14号管理所で誕生し、23年間をそこで過ごした彼は、母親のチャン・ヘギョン (Chang Hye-kyong) と兄のシン・ヒーギョン (Shin Hee-Keun) の公開処刑を目撃するように強制された。二人は逃亡を図って公開処刑された。彼は以下のように回想している。

「7カ月にわたって第14号管理所の拷問室で拷問された後、父と私は再び一緒にされました。私たちは目隠しをされ外に連れ出され、群衆のいる公の広場に連れて行かれました。そこが年に2、3回公開処刑に使われる場所だと分かりました。手錠が外されて、私たちは群衆の最前列に座るよう命令されました。遠くからその場所に人が見えました。近くに引っ張られて来ると、恐ろしいことに、それは私の母と兄でした。兄は非常に弱っていて、骨が皮膚の上に浮き上がっていました。母は頭から足まで膨れていました。起訴状が読まれ、『人民の敵チャン・ヘギョンとシン・ヒーギョンを死刑に処す』と言う最後の言葉が大声で語られました。その後、父と私の目前で、まず母が絞首刑にされ、続いて兄が銃殺隊に射殺されました。」

- ・ チェ・クワンホ (Choi Kwang-ho) : 「朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）ではもう暮らしていけない」と言ったために第15号管理所に送られた。飢えに負けて作業班から抜け出して野イチゴを取りに行き、2001年4月28日に公開処刑された。
- ・ 別の囚人のキム (kim) は次のように話した。

「管理所のすべての人が処刑を目撃しています。私は、第15号管理所に収容されていたときに3回目撃しました。脱走して捕まった人も第15号管理所に入っています。私の知る限り、ヨドク収容所の第15号管理所から脱走に成功した例はありません。捕まって2、3カ月間尋問されてから処刑されます。」

キムが処刑を目撃したひとり、26歳のドン・ジュールミ (Dong Chul-mee) は、宗教を理由に1999年に処刑された。

### 飢餓

- ・ 収容所の元看守は、アムネスティに、囚人は蛇やネズミを捕まえて食べ、豚の餌さえも食べていると話した。

- ・ 囚人のシン・ドンヒョク (Shin Dong-hyuk) は、ある日運よく、牛の糞の中にトウモロコシの実を見つけ、拾って袖で拭いて食べたと話した。
- ・ 第 15 号管理所の囚人であったパク・インシク (Park In-shik) は、2003 年 2 月、ハチの巣から蜜を取って食べて捕まり、独房に送られ、食べ物の割り当てを減らされて、栄養失調で死亡した。彼が 2001 年 9 月、38 歳で第 15 号管理所に送られてきたのは、酔って国の経済構造を批判したためだった。

### 衛生状態

「ヨドクの囚人は何年間もシャワーを浴びていませんでした。体は悪臭を放ち、シラミに覆われていて、とてもかゆいのです。長年のうちに垢が厚い層になっていますが、全員が臭いので、その悪臭に気づかなくなっていました。夏期、たまたま川の傍で働いていた時、看守が私たちに水浴びの許可をくれました。彼らが私たちの悪臭に耐えられなかったからです。そんなときでさえも、果たして翌日生きているかどうか分からなかったから、ほとんどの囚人が水を浴びませんでした。釈放後、厚くなった垢とシラミを取り除くのに、数カ月かかりました。」キム (kim) (元ヨドクの被収容者)

### 拷問

- ・ 以前にヨドクに収容されていたリ (Lee) は、拷問の経験を話した。

「小さい机の上に大きなヤカンがあって、そばに紐のついた 20 cm 位の低い木の机が見えました。私は低い机に縛り付けられ、ヤカンを口に押し込まれたので、水を飲まざるを得ませんでした。少しすると口の中は水であふれて、鼻に水が入り始めました。鋭い痛みを感じ、息がつまって失神しました。どのくらい意識を失っていたか分かりませんが、気がつくとき、尋問官が私の膨れ上がった腹の上に置いた板の上でジャンプして、水を吐き出させていました。苦しく、どうしようもなく嘔吐し始めました。立ち上がれなかった私は独房に連れ戻され、その後、高熱に苦しめられてしばしば意識を失いました。腕を縛られて 30 分間吊るされ、下されて、また吊るされました。日に 5 回は吊るされました。また別の時には、黒いビニール袋を頭から被され、長い間、水の中に沈められました。5 カ月間、毎日ではないですが、拷問が続きました。拷問がある日は、一日中続きました。最後には、彼らの思い通りに私は自白してしまいました。」

- ・ 朝鮮民主主義人民共和国出身で韓国籍のカン・グン (Kang Gun) は、平壤の拘禁施設において、また、同国の作業員により 2005 年 3 月 4 日に中国吉林省から拉致され最初に拘禁された咸鏡北道の清津 (チョンジン) 市にある国家安全保衛部の拘禁施設において、殴打され拷問を受けた。アムネスティは、カン・グンの両脚が切断されたこと、また、2008 年もしくは 2009 年に管理所(特定不能)に移送されたことを確認している。
- ・ 第 14 号管理所で生まれたシン・ドンヒョクは、政治囚収容所内にある地下拷問室で看守による拷問を受けた。看守は、さらにシン・ドンヒョクの父親に対しても、失敗に終わった母親と長男の脱獄計画のこと

を父とシン・ドンヒョクが知っていたか、あるいはこれに関与したかの取調べ中に拷問を加えた。この時 13 歳だったシン・ドンヒョクは次のように述懐している。

「朝、私は直ちに学校へ来るように命令されました。私は手錠をかけられ目隠しをされて、知らない場所に車で連れて行かれました。そして、私の母と兄がその日の朝、脱獄しようとして捕まったことを知らされ、この家族ぐるみの謀略を認めるようにと言われました。私は、第 14 号管理所の地下拷問室に連れて行かれ、小さな電気が天井にあるだけの暗い小部屋（第 7 独房）に拘禁されました。翌日、私はあらゆる種類の拷問器具が置いてある拷問室に連れて行かれました。そこで裸にされ、足には手錠をかけられ両手はロープで縛られて、天井から宙吊りにされました。尋問官の一人に、今回の脱獄計画は誰が言い出したのか白状するように言われました。私は知らなかったと弁解しました。誰かが炭火を起こし私の背中の中下に持ってきました。私は腰が焼けるのを感じて金切り声をあげました。拷問者たちは、私が身をよじるのを止めるために、鋼鉄の鉤針で股間のあたりを突き刺しました。痛みのあまりに私は失神しました。自分がどれくらいの間意識を失っていたのか分かりませんが、意識が戻ったときには自分の糞尿の悪臭に満たされた独房に戻されていることが分かりました。下腹部には血と傷跡がありました。日が経つにつれて、痛みが増し、肉肌が腐り始めたため、あまりの悪臭に看守も私の独房に入るのを避けるほどでした。」

#### 児童労働

- ・ ある囚人は次のように述懐した。

「私が 10 歳だったとき、一日に 30 回、自分の体重より重い、土 30 キロ入りの袋を持ち上げるように言われました。きちんとできないと先生たちに棒で叩かれました。」

- ・ カン・チョルフアン（Kang Cheol-hwan：ヨドク収容所の元被収容者。少年の時に家族とともに収監された）は、次のように述懐した。

「この作業は私も含めて同い年の子どもにとって、とてもつらいものでした。でも、あえて不平を漏らすようなことはしませんでした。最初の 10 回目を過ぎる頃には両脚が震え始め、体が痛み、肩の皮膚が擦りむけ、倒れそうになりました。でも、止めてしまったら監視している先生たちに棒で叩かれます。」

- ・ 家族は、有罪となった囚人に近寄ることは禁止されているが、その他の親とその子どもたちは、子どもが「労働可能な」年齢に達するまで一緒にされた。

- ・ シン・ドンヒョク（1982 年に第 14 号管理所で生まれた）は、次のように述懐した。

「私は、管理所にある 5 年制の小学校で読み書きと足し算引き算のみを習いました。12 歳になった時に、中学校へ送られ、その後働かされました。私は母親から離されて他の子どもたちと一緒にされました。その中学校では実際の授業はなく、草刈り、収穫、肥やし運びなどを含むあらゆる肉体労働をさせられました。」

・また、シン・ドンヒョクは、13～16歳の頃の事を次のように述懐している。

「私は危険な作業を強要されましたが、作業中に多くの子どもたちが死ぬのを見ました。時には一日に4～5人の子どもが死にました。一度は、事故で8人の人が死ぬのを目撃しました。高いセメントの壁の上で3人の男性が作業をして、下の方で15歳の少女3人と少年2人がモルタルの補給作業をしていたのですが、私がモルタルを子どもたちの所に運んでいる最中に、そのセメントの壁が崩れ落ちたのです。8人は、何トンものモルタルに生き埋めになりましたが、誰も助けようとする者はなく、それどころか、警備員たちは私たちに『作業を止めるな』と言いました。」

・カン・チョルファンも、作業場で働いていた子どもたちの死亡に関して、次のように述懐している。

「私のクラスの子どもたちは土を掘り、その土を200メートル離れた作業場に運ぶよう命令されました。12人の子どもたちがシャベルで穴を掘り、その他の子どもたちが土を袋やバケツに入れて運びました。土堀現場は粘土質の小山で、とても柔らかい土でしたが、深く掘っていくうちに、いつ崩れるか分からないと恐れていました。子どもたちを監督していた先生たちは、子どもたちに掘り続けるよう言いましたが、3日後に、この小山が突然崩れました。小山が崩れた際、小山の頂上には6人の子どもがいましたが、3人が死亡し、あとの3人が重傷を負いました。それにもかかわらず、先生たちは、子どもたちの不注意だと責めました。」

#### 強制労働

・シン・ドンヒョクは以下を明らかにした。

「私は、1982年～1994年間の最初の12年間を母と一緒に第14号管理所で暮らしました。母は農業の任務を課せられ、朝5時に仕事を始め、夜の11時に戻ってきました。夜9時半には仕事を終えても、他の囚人と同じく強制的に「思想闘争会議」に毎日1時間半参加させられていました。外出禁止令により夜11時以降、囚人は外出できません。母は忙し過ぎて時間もなく、疲れていて私に愛情を示すことができなかったと思います。ですから、母のことを思い出しても特別な感情を持ってません。1992年、10歳の時、子どもたちは母親が苗を植えるのを手伝うよう命令されていたので、一度、母について田圃に行きました。私たちは仕事の割り当て量をこなすよう厳しい命令を受けていました。その日、母は顔色がとても悪く、衰弱していて、頭痛を訴えていました。しかし収容所の規則で、仕事は免除されませんでした。一生懸命にやっても仕事がのろく、割り当て量をこなすのが無理に見えると、役人は仕事の遅さに激怒して、他の囚人たちが昼食の間、母に、陽が照る中で両手を挙げ、泥道にひざまずいているよう命令しました。1時間半後に戻ってくると、彼は、母に仕事を始めるよう命令しました。母はできる限りやったのですが、3時半頃意識を失ってしまいました。その晩、罰則の（思想闘争あるいは自己批判）会議で、母は2時間ひざまずかされ、他の40人の囚人たちに怠慢さを罵られたのです。」

・（1999年～2001年まで収容されていた）キムトリが、付け加えて次のように語った。

「私たちは（第 15 号管理所の）農場で午前 7 時から午後 8 時までトウモロコシを栽培していました。10～15 人の班に分けられて 1 日に達成する生産目標を与えられ、班がその日の目標を達成できない場合は、班の全員が集団で罰せられました。収容されていた 3 年の間、つねに飢えと衰弱で、目標を達成できないことがしばしばありました。罰として殴打され食料の割り当てを減らされました。仕事の後に、さらに思想闘争会議があって、目標を達成できなかったものは他の囚人から厳しく非難され叩かれました。病気になれば、生産しなかったということで食事は与えられません。」

- ・ チェ・クワンホ（Cha Kwang-ho）は、強制労働で、木をひきずって運んでいる時に背中をひどく痛めた。怪我がひどく働けなかったため、食料は停止され、2011 年、栄養失調で死亡した。1999 年 1 月に第 15 号管理所に送られてきた時、チェ・クワンホは 65 歳だった。それ以前、彼はジャーナリストだった。

## 「裁判」

- ・ 同国では、「自己批判」という裁きが通常である。すべての社会階層において、地域社会で会合が定期的に持たれ、そこでは、人びとが自らの欠点を述べ、他人を批判するよう仕向けられている。
- ・ 管理所においては、1 日の終わりに大きな集団で「自己批判」が行なわれる。集団の役に立たなかった人を殴打するよう看守が他の囚人に指示する。
- ・ 一般社会においては、このような集会は大きっぱに週単位で行なわれ、しばしば中年の女性が取り仕切り、見つけたことを当局に報告する。当局が政治的だと見なした罪で報告された人は収容所送りということになる。
- ・ 起訴されてもしばしば裁判を受けられない。裁判が行われてもほとんどの場合、被告不在で罪が確定する。
- ・ 「連座の罪」で収容所に送られた人は裁判を受けられないし、自らが送られるということさえもしばしば知らない。またいつ釈放されるかも分からない。

## 継承権

1980 年、金正日の継承が労働党大会で確かなものになった後、（北朝鮮）労働党の役人の追放が行なわれ、10 万人が 8 カ所の収容所での重労働を言い渡された。次の大会、すなわち 30 年後、2010 年 9 月 28 日（火）に、（北朝鮮）労働党は、指導者であるキム・ジョンイルの最年少の息子、キム・ジョンウンが 4 つ星の将軍に任命されたと発表した。これは、彼が事実上、同国の指導者として彼の父の後を継承すると大方が思う動きであった。

以来、すでに同国における死刑数は増加しており、政治囚収容所に送られる人の数は再び増えるものと広く



信じられている。

### 収容所

#### 平安南道价川（ケチョン）市にある第 14 号管理所（5 つの谷にまたがる）

完全統制区域

推定人口：50,000 人を超える犯罪者と家族

生産物：トウモロコシ、豚、味噌、軍服、タイヤ、セメント、紙、硝子、陶器

寝具類：なし

衣類：6 カ月ごとに 1 回

食物：1 日 1 人につき 700 グラム

#### 咸鏡南道耀徳（ヨドク）郡にある（5 つの谷にまたがる）第 15 号管理所

完全統制区域および革命化区域

推定人口：50,000 人を超える犯罪者と家族

生産物：味噌、菓子、酒類、石灰石採掘、トウモロコシ、羊、フィルタ付きタバコ、アヒル、箸、採炭、麺類

寝具類：家族地区のみ

衣類：家族地区のみ（1 年に制服一着）

食物：1 日にトウモロコシ 600 グラム（1 年に粥を 1 回、米を 2 回）・子どもは 300 グラム

追加統計データ：

被収容者の 5 人に 2 人の割合で栄養失調により死亡する

約 3～4 パーセントの被収容者が事故死する

#### 咸鏡北道化城（ファソン）郡にある第 16 号管理所

完全統制区域

推定人口：20,000 人を超える犯罪者と家族

生産物：不明

寝具類：不明

衣類：不明

食物：不明

#### 平安南道北倉（プクチャン）郡得長里にある第 18 号管理所

完全統制区域および革命化区域

推定人口：10,000 人を超える犯罪者と家族

生産物：石炭、セメント、陶器、屋根瓦、アルコール

寝具類：なし

衣類：作業着を 1 年に 1 回

食物：1日1人につき 300～900 グラム

### 咸鏡北道会寧（フェリョン）市にある第 22 号管理所

完全統制区域

推定人口：50,000 人を超える犯罪者と家族

生産物：トウモロコシ、スイカ、ジャガイモ、料理用油、味噌、菓子、タバコ

寝具類：不明

衣類：不明

食物：不明

追加統計データ：

毎年、1,500～2,000 人の被収容者（主に子ども）が栄養失調により死亡する

### 翰城にある第 25 号管理所は咸鏡北道清津（チョンジン）

完全統制区域

推定人口：5,000 人を超える犯罪者と家族

生産物：不明

寝具類：不明

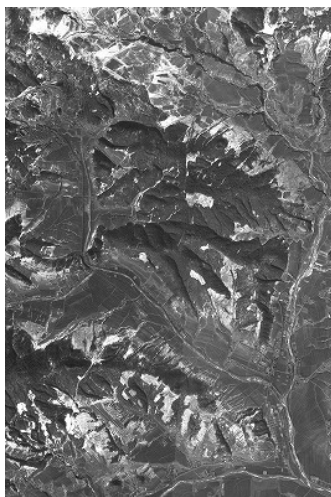
衣類：不明

食物：不明

### サテライト写真



ヨドク政治囚収容所(第 15 号管理  
所) © 2011 DigitalGlobe, Inc



第 22 号管理所  
© 2011 ImageSat, Intl



第 14 号、第 18 号管理所  
© GeoEye, Inc

オリジナルの報告書(英文)は以下からダウンロードできます。

<http://www.amnesty.org/en/library/info/ASA24/001/2011/en>

---

### **North Korea: Political Prison Camps**

Amnesty International

International Secretariat

Peter Benenson House, 1 Easton Street, London WC1X 0DW,

United Kingdom

翻訳: 社団法人アムネスティ・インターナショナル日本

TEL: 03-3518-6777 FAX: 03-3518-6778

[info@amnesty.or.jp](mailto:info@amnesty.or.jp)

<http://www.amnesty.or.jp/>

---